

予 算 要 求 資 料

令和3年度当初予算 支出科目 款：衛生費 項：環境管理費 目：環境管理推進費

事業名 環境にやさしい容器等推進事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

環境生活部 廃棄物対策課 資源循環推進係 電話番号：058-272-1111(内 2712)

E-mail：c11225@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 2,541千円(前年度予算額：3,648千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	3,648	1,824	0	0	0	0	0	0	1,824
要求額	2,541	1,270	0	0	0	0	0	0	1,271
決定額									

2 要求内容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

環境への負荷軽減が図られた循環型社会の形成推進にあたって、「3R」(リデュース、リユース、リサイクル)の推進が重要な課題の一つとなっている。

不適切な処理のため、陸上から海洋へのプラスチックごみが流出され、このままでは2050年までに魚の重量を上回るプラスチックが海洋環境に流出することが予想されるなど、世界規模での環境汚染が懸念されている。

地球規模での資源・廃棄物制約や海洋プラスチック問題への対応は、SDGs(持続可能な開発目標)でも求められているところである。

使い捨てプラスチックの容器包装廃棄量(一人当たり)が世界で2番目に多いと指摘されるなど、これまで以上にプラスチックの3Rを一層推進することが不可欠である。

(2) 事業内容

○「ぎふプラごみ削減モデルショップ」の登録

使い捨てプラスチック容器に替えて、繰り返し使用可能な容器やバイオプラスチック容器等の環境にやさしい容器の使用を推進する店舗及びマイ容器を持参した方にサービスを提供する店舗を「ぎふプラごみ削減モデルショ

ップ」として県が登録し、県のホームページ等で紹介する。また、地域情報誌への掲載により、使い捨てプラスチックの使用削減に係る広報を実施する。

(3) 県負担

地方消費者行政強化交付金を活用する。(国庫補助率 1 / 2)

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
旅費	321	職員の業務旅費
需用費	324	ポスター送付用筒、ポスター及びステッカーの印刷
役務費	105	郵便料
委託料	1,791	地域情報誌への掲載
合計	2,541	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

- 「清流の国ぎふ」創生総合戦略 3 地域にあふれる魅力と活力づくり
 - (1) 地域の魅力の創造・伝承・発信
 - ② 美しく豊かな環境の保全・継承
- 第3次岐阜県廃棄物処理計画(令和3~12年度)※令和2年度末策定予定
 - ・プラスチックごみ対策の推進
- 岐阜県SDGs未来都市計画(令和2年8月)
 - ・プラスチックごみ対策の推進

(2) 国・他県の状況

令和元年6月に開催された主要20カ国・地域(G20)大阪サミットを前に、プラスチック資源循環戦略が策定された。

伊勢湾流域圏の三重県、愛知県ではプラスチックごみを含む海岸漂着物の発生抑制対策として、普及・啓発、調査、連携・協力を行っている。

(3) 後年度の財政負担

引き続き、県民へ普及啓発する必要がある。

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
ぎふプラごみ削減モデルショップに登録し紹介することで、事業者と協働し、使い捨てプラスチックの容器包装、製品の使用削減を推進する。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前	指標の推移		現在値 (前々年度末時点)	目標	達成率
「ぎふプラごみ削減モデルショップ」店舗数	0 (2018)			540 (2019)	1,200 (2021)	45%

○指標を設定することができない場合の理由

（前年度の取組）

環境にやさしい容器の使用を推進する店舗等の登録制度を運用し、賛同する登録店舗の拡大を図った。

（前年度の成果）

環境にやさしい容器の使用を推進する店舗等を登録し、紹介することで、使い捨てプラスチックの容器包装、製品の使用削減を推進することができている。

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い △：必要性が低い 	
(評価) ○	使い捨てプラスチックの容器包装廃棄量（一人当たり）が世界で2番目に多いと指摘されるなど、プラスチックの3Rを一層推進することが不可欠である。陸域で発生したごみが河川等を経由して海域に流出し、海洋汚染を引き起こしていることから、内陸県においても事業の必要性は高い。
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおりまたはそれ以上の成果が得られている △：まだ期待どおりの成果が得られていない 	
(評価) ○	環境にやさしい容器の使用を推進する店舗等を登録し、紹介することで、使い捨てプラスチックの容器包装、製品の使用削減の必要性を県民に伝えることができている。
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている △：向上の余地がある 	
(評価) ○	環境にやさしい容器の使用を推進する店舗等を登録し、紹介することで、使い捨てプラスチックの容器包装、製品の使用削減を推進することができている。

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業が直面する課題や改善が必要な事項 使い捨てプラスチックの容器包装、製品の使用削減を推進するため、多くの店舗等から賛同を得ることが必要である。

(次年度の方向性)

ぎふプラごみ削減モデルショップの賛同者を引き続き募集し、使い捨てプラスチックの容器包装、製品の使用削減を推進する。

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課	【○○課】
組み合わせて実施する理由や期待する効果 など	